

## 注文票

注文FAX 048-432-7335		
氏名:	住所:	電話:
	〒	
新書判 360 頁 注文数 部		
定価: 本体 8800 円 + 税		
2005 年 2 月 28 日 発行		
日本僑報社刊行した主な書籍 『中国のインターネットにおける対日言論分析』 『日中「新思考」とは何か』 『中日関係に対する戦略的新思考』 『対日新思考』論議の批判的検討』 『中国人特派員が書いた日本』 『永遠の隣人 -- 人民日報に見る日本人』 『日中相互理解とメディアの役割』 『日中ホンネで大討論!』 『中国人の見た日本』 『日本華僑華人社会の変遷』 『中国人の日本奮闘記』 『中国の「対日新思考」は実現できるか』 『私が出会った日本兵』 『つくる会の歴史教科書を斬る』 『新中国に貢献した日本人たち』		

# 陸游・陸詩に関する研究

甲南大学大学院博士課程 耿碩宇著

ISBN 4-86185-002-9

- 目次□
- 第一章 「閑適」説の検討
  - 第二章 「憤激」説の検討
  - 第三章 詩作に対する陸游の主張・態度から見た「閑適」説と「憤激」説
  - 第四章 陸游の人格から見た「閑適」説と「憤激」説
  - 第五章 陸游の再評価

### 著者略歴 耿 碩宇 (こう せきう)

1955 年中国河南省の農村に生まれる。1987 年まで農民として（農業技術員・農業機械師）田畑を耕しながら文学に励んだ。1987 年北京人文函授大学卒業。1988 年より襄城県機械廠にて農用機械製造に従事。1991 年来日。2000 年桃山学院大学修士課程修了、文学修士の学位を取得。現在、甲南大学博士後期課程に在学中。

主要論文 「父が語った花岡事件」(墨面訳、『花岡鉞泥の底から』第 7 集、中国人強制連行を考える会、1966 年 6 月)、「花岡事件と戦後日本」(『社会文化研究』第 3 号・社会文化学会・2000 年 2 月)、「中国における親族呼称と親族観念」(『甲南大学紀要』文学編、社会科学特集、2003 年度、131 号)、「中原農民にとっての『城』と『寨』」(『甲南大学紀要』文学編、社会科学特集、2004 年度、136 号)。

**【内容紹介】** 本書は、中国南宋以来八百年間、日本の江戸時代から始まり、近代台湾、韓国に至る漢文学界における中国「最大」の詩人―陸游の評価、とくに「閑適説」「憤激説」の二種類の性質をめぐる評論について、全面的に調査し総括を行ったものであり、陸游・陸詩の「閑適説」「憤激説」の根源、秘密を探り、明らかにしようとするものである。八百年の中国・日本・韓国の漢文学界における陸游・陸詩論争の「謎」を解く。